

氏名	檜垣健二		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	乙第1864号		
学位授与の日付	昭和62年12月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者(学位規則第5条第2項該当)		
学位論文題目	イヌ肝類洞壁細胞の免疫応答における役割 一類洞壁内皮細胞およびKupffer細胞とリンパ球の混合培養に よる検討一		
論文審査委員	教授 辻 孝夫	教授 寺本 滋	教授 栗井通泰

### 学位論文内容の要旨

分離肝類洞壁細胞(SLC), 中でも肝類洞壁内皮細胞(SEC)およびKupffer細胞(KC)が免疫応答にどの様に関与しているかを調べる目的で, これらをstimulator cellとして同種リンパ球と混合培養(MLC)することにより免疫学的解析を試みたところ以下の結果をえた。

- 1) SECおよびKCは雑種成犬肝SLCより遠心流出法を用いて分離した。そのpurityはSEC65%, KC78%, viabilityはそれぞれ87.3%, 96.3%であった。
- 2) SEC, KCはMLCを強く刺激し, mitogen induced T cell activationにおいてaccessory functionが認められた。KCはこれらの反応でdoseを増やすと強い抑制作用がみられた。
- 3) SEC, KCのクラスII抗原陽性率をOKIa1抗体を用いて検討したところ76.2%と15.7%であった。これらをOKIa1抗体と補体で処理することによりその陽性率はそれぞれ1.3%と1.2%に低下し, 上記反応のstimulatorとしての能力が失われた。
- 4) IndomethacinによりKCのprostaglandin(PG)分泌能を検討したところ, 確証はえられなかったもののその可能性が示唆された。
- 5) SEC, KCをリンパ球と混合培養した結果.PHAによりblast化した同種リンパ球に対するCTLが誘導された。また, MLCで誘導されたCTLはSEC, KCに対して細胞傷害性を示した。しかもこれらの反応はstimulatorのtarget cellに比較的特異的であった。

以上によりクラスII抗原陽性SECおよびKCはMLC, mitogen induced T cell activationに対し抗原提示能をもち, KCはPG分泌の可能性が示唆された。また, これらの細胞はクラスI抗原ももち, 免疫応答のafferent phaseだけでなくefferent phase

においても重要な役割を果たすと考えられた。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は、イヌ肝類洞壁細胞の免疫応答における役割について類洞壁内皮細胞(SEC)およびKupffer細胞(KC)とリンパ球の混合培養(MLC)法を用いて研究したもので、SECおよびKCともにクラスI抗原をもち免疫応答の afferent phase だけでなく efferent phase においても重要な役割を果たしているなど新しい知見を得ている。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。